富士川の黄金

「日曜寸言」040418

ワーグナーの楽劇「ニーベルングの指環」は、その演奏時間が15時間を超える。数ある舞台芸術の中でも最長の演目の一つだ。もちろん、一夜では上演できないので4夜に分けて演奏される。「ラインの黄金」、「ワルキューレ」、「ジークフリート」、そして「神々の黄昏」がそれだが、難解さもあって全曲を鑑賞するには少なからず忍耐が必要だ。

「源氏物語」で、「桐壺」の巻から先に読み進めないことを「桐壺源氏」というように、世界には無数の「黄金指環」が存在するはずだ。そんな人のために、頼まれたわけではないが、「指環」のあらすじを簡単に解説しておこう。

ライン河には莫大な眠れる黄金があり、それをラインの乙女たちが守っていた。あるとき人間族の醜い男がやってきて、手練手管でこれを奪い取る。しかし、巨人族に作らせた壮麗な城の建築費を支払うために、神の一族がこの黄金を横取りしてしまう。

神々の長ウォーターンは、人間の女と密通し、兄妹を生ませる。別々に育てられた二人は自分たちが兄妹であることを知らずに愛し合って結ばれる。ウォーターンの妻エルダは、夫に兄妹を殺すことを進言する。ウォーターンとエルダの娘ワルキューレのブリュンヒルデは、兄妹を助けようとして父の勘気に触れ、彼女自身も殺されて、火山の峰で永遠の眠りにつく。

近親相姦の子ジークフリートは、父が持っていたトネリコの剣を磨いて英雄になる。大蛇となって黄金の指環を独占している巨人族の住む洞窟に行き、その剣で大蛇を殺し、指環を手にする。小鳥の言葉に誘われて、峰に眠るブリュンヒルデを蘇生させ、二人は激しく愛し合う。

知と力を得たジークフリートはラインへの旅に出る。しかし、昔ラインの黄金を奪った人間の子孫の計略にあって、心ならずもブリュンヒルデを裏切る。愛を失った彼女は、ジークフリートの弱点を教えて決闘に敗北させ、彼を見殺す。神々は没落し、ラインの黄金はブリュンヒルデの手でラインの乙女たちに返される。

私たちの富士川にも昔は豊かな黄金があった。今は無い。欲の深い人間族によって完膚なきまでに蕩尽された。ダムやえん堤で「富士川の乙女」である。鮎やカワマスやウグイが遡上できない。人間族が欲望によって奪ったものを、今や川の乙女たちに返すことが必要だ。

この種の流域問題は富士川に限らず世界中に共通だ。そこで山梨大学COE「アジア流域総合水管理モンスーン研究教育」では、アジアの河川を中心に「川の黄金」を乙女達に返す国際的研究を開始した。そこでどんなロマンが生まれるか、「乞御期待！」。